

トピックス

■大阪ミナミに新ランドマークが誕生

4月1日、冠婚葬祭大手のベルコは、大阪ミナミの新歌舞伎座跡地に、「ホテルロイヤルクラシック大阪」(仮称)の建設を計画しており、本年6月に着工、2019年10月の開業を目指す、と発表した。

新ホテルは、**隈研吾建築都市設計事務所が設計した地下1階・地上19階の都市型ホテル**。低層部は既存の新歌舞伎座のファサード及び屋根の一部を継承したデザインとし、難波の街に馴染んできた「顔」である建物を保存する意匠とし、高層部はアルミハーバーを複数重ねた、繊細かつダイナミックなファサードデザインとする。内部は150室の客室をはじめレストランやラウンジ、5つのバンケットを配置し、ブライダルに対応できるよう、2つのチャペル、フォトスタジオ、ブライダルサロンを設ける。

なお「ホテルロイヤルクラシック大阪」は本格的なシティホテルで、国内外から多くの人々が集う新たな大阪ミナミのランドマークとなり、インバウンドが進む国際観光都市大阪の発展にも貢献していきたいとのこと。



■道頓堀に日本最大級の屋外ビジョン「ツタヤエビスバシビジョン」が放映開始

大阪・道頓堀で3月24日、**日本最大級の屋外ビジョン「ツタヤエビスバシビジョン」**の点灯式が行われた。同ビジョンは、広告用デジタルサイネージで、「TSUTAYA戒橋店」の北側壁面と屋上部分を利用して設置した。サイズは壁面部分が高さ17.3メートル、幅15.4メートル、面積265平方メートル。屋上部分が高さ10.2メートル、幅18.6メートル、面積190平方メートル。計455平方メートルの表示面積は日本最大という。

光源には、日亜化学工業製SMD型LED素子を20ミリピッチで採用し、**鮮明な映像を映しだせるという。ビジョンは2面をシンクロして投映**でき、上下で別々の内容にすることもできる。投資額は約5億円。広告料金は、30秒1枠の占有枠を6社でローテーションする場合で、1社1週間あたり450万円。戒橋周辺の通行人数、平日=約20万人、休日=約30万人



■北大阪急行線、さらに北へ！！箕面延伸の基本協定締結

北大阪急行電鉄など関係4社は3月30日、千里中央駅から新箕面(同・箕面市、仮称)までの延伸について、基本協定を締結した事を発表した。

これは、北大阪急行線を**現在の千里中央駅から北へ2.5km延伸し、新駅を2つ作る「北大阪急行線延伸事業」**。同線は地下鉄御堂筋線に直接乗り入れるため、**箕面市から新大阪・梅田・なんばなど大阪都心に乗り換えなしでダイレクトアクセスが可能となる**。緑豊かな住宅都市・箕面に至極の利便性が加わり、まちの魅力がアップする。

【新駅概要(予定)】

・新箕面駅(仮称)

★集客力のある施設を設備
バスの乗り場の上空を立体利用して「子育て」を核とした新しい施設を設置予定。まちの魅力をいっそう引き出すとのこと。

★交通広場・駐輪場・道路を整備
新たにバス乗り場や駐輪場を整備し、駅周辺の都市計画道路の整備にも着手している。



▼新箕面駅イメージ図⇒

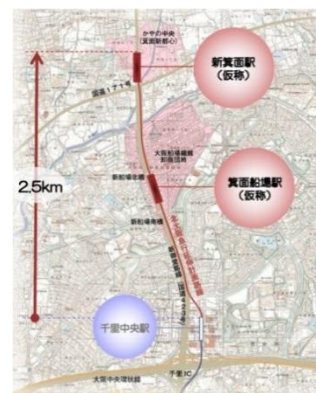
・箕面船場駅(仮称)

★保険医療・スポーツ・文化を核に
保健医療・スポーツなどの健康機能と公共ホールなど文化機能を備えた複合施設構想の具体化を目指す。

★ビジネス拠点として高い価値
船場地域は、箕面市で唯一高いビルが建設できる地域ですので、新駅ができることにより得られる高いアクセス性を活かして、新たな企業集積などをを目指す。



▼箕面船場駅イメージ図⇒



■南海電鉄「めでたいでんしゃ」が泳ぎだす

南海電鉄では、2014年11月から、加太観光協会および磯の浦観光協会と共同で、加太線沿線の魅力を発信するプロジェクト「**加太さかな線プロジェクト**」を進めてきた。

そして今般、ついに同プロジェクト初の観光列車「**めでたいでんしゃ**」が4月29日(金・祝)運行を開始。電車の内外に、加太を代表する海の幸「鯛」のモチーフを散りばめたかわいい電車。

【概要】

加太線ワンマン車両(7100系2両1編成)の内外装に装飾を施し運行。

「加太の鯛」と「淡嶋神社の縁結び」をイメージした、乗るだけでおめでたい気分になる＝「おめでたい」ずっと乗っていただきたい＝「愛でたい」電車。

運行開始日：2016年4月29日

運行区間：和歌山市駅～加太駅間 ※和歌山港線・多奈川線を運行する場合があります。

【外装イメージ】

【内装イメージ】



▼南海加太線路線図

